

2021 事故防止・経験交流集会 実施報告

教育遭難対策委員長 伊東春正（かがりび山の会）

教育遭難対策委員会主催で実施した事故防止・経験交流集会を報告します。

(1) 日程：2021年11月6日（土） 10時～16時30分

(2) 場所：千葉市幕張勤労市民プラザ

(3) 参加者：9会から22名

（かがりび山の会、船橋勤労者山の会、まつど遠足クラブ1年さくら組、東葛山の会、茂原道標山の会、千葉こまくさハイキングクラブ、岳人あびこ、ちば山の会、松戸山の会）

(4) 実施内容

① 事故報告

今年度の事故は4件と減少したが、

- ・ 高齢者の女性の事故（3件）
- ・ 転倒事故（3件）

と傾向は従来と変わらない。

② 転倒事故防止対策

過去8年間の転倒事故33件の分析結果を報告、内容は別の報告記事を投稿している。

転倒事故防止対策として、トレッキングポール使用とトレーニングにより筋力とバランス力の維持・向上を呼びかけた。

③ 事故事例研究

単独行の低山登山にて道に迷い、夜間に沢を降り、滝から転落して13日目に救助された事例をビデオで視聴した後、グループにわかれ討議した。

不安な心理状態時には、平常時では考えられないような行動となる事例をとりあげた。人間心理として認知バイアスがあり、自分の思い込みや周囲の環境といった要因により、非合理的な判断をしてしまう心理現象である。

認知バイアスに陥らずに、正確な判断を行うには、人の意見を聞き入れることだと言われており、単独行登山は高リスクだといえる。。

④ ビデオ講演

遭難事故の背景には体力不足があり、自分の力量に合った山を選んで登るように、山の難易度と体力度を示す山のグレーディングと、自身の体力度を測る登攀速度（メッツ）を紹介するビデオを視聴した。

⑤ 体力測定

足の筋力測定として10回の立ち上がり・座り時間、バランス力測定として片足立ち時間をそれぞれ測定した。

参加者全員が普通以上の測定結果であった。

⑥フリー・ディスカッション

あらかじめテーマを決めた4つのグループに分かれて、ディスカッションを行った。話し合われた項目を紹介する。

□ハイキング・縦走グループ、

- ・登山スタイル
- ・トレーニング方法
- ・新型コロナの影響
- ・登山することのメリット

□新型コロナ対応グループ

・各会、山岳4団体の共通認識をベースにして、オリジナルガイドラインを作成し、慎重に行動している。

- ・「緊急事態宣言」解除後は、活発に登山を行っている。

□事故防止の取組グループ

- ・計画書の提出期限と審査方法
- ・教育・訓練の取り組み
- ・リーダーとなるための心構え
- ・登山技術の進化

□山行管理の課題グループ

- ・各会の山行計画書の比較
- ・山行計画書の提出期限の確認
- ・自己責任の規定範囲の確認

実施後の総括では、今年も参加者が少なかったことが話し合われた。

そもそも会員数が多い会では、技術的な内容であれば、自分たちの会だけで訓練・講習を実施しているので、労山行事には関心が薄い。

それならば、事故報告と事故防止の取組や山行管理などの管理面に絞ったテーマで、開催してはどうかの意見が出された。今後の課題である。



開会挨拶



グループ・ディスカッション

以上